

【集団の中での成長について】

子どもの成長を ①個人の成長 と ②集団の中での成長 の2つの側面からとらえ、
②集団の成長のなかで、特に(1) 自己主張 と (2) 他者理解 に重点を置いて指導をおこなう

- ・ 人とのかかわりの中で成長できる子
- ・ おともだちのなかで、自分の考えがいえる子
- ・ おともだちのきもちを考えられる子

赤ちゃんとして生を受け、肉体的にも精神的にも親に依存していた子どもが、親以外の存在に興味を持ち始める、それが「自立」の第一歩です。幼稚園に入園した子どもは親から完全に独立した時間の中で生活を始め、さまざまな知識や経験や活動を通じて家とは別の自分の世界をつくり始めます。

最初は自分の身の回りのことを自分ですることから始まり(基礎的生活習慣)、さまざまな知育活動を通じて言語・知識・技能・感性を身につけ視野を広げていく、こうして自分でできることに自信を深めたこどもたちは、さまざまなことに自ら意欲的に取り組みはじめます。

一方で、入園当初は家の中でいつも依存できる存在であった母親の存在が、幼稚園ではポツカリ空いた状態になります。これを母親→先生→子ども同士という人間関係に置き換えていきながら、心の隙が埋まっていく。これが集団の中での成長の第一段階です。

子ども同士の関係が成熟してくると、先生から一方的に教わる関係から、自分たちで考えコミュニケーションをとりながら取り組み、相互に影響しあう関係が生まれる。子ども同士は個性や成長差があり、相手を理解することで良い関係が形成される。これを集団の中での育ちの成長のモデルとし、自由保育・設定保育を問わず日常生活の中での子どもたちの人間形成の目標としていきます。